私が朝早くに登校する理由

夢月 那由紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私が朝早くに登校する理由

【Ｎコード】
Ｎ７４００Ｉ

【作者名】
夢月　那由紀

【あらすじ】
元彼に振られてから約一か月。私は最近、朝誰もいない時間に学校へ行き、愚痴を漏らしたりする。朝早く行くのは、いつからだっけ？　それより、朝早くに行くのは何か理由があったからだっけ？
いつの間にかそうしていて……

「別れよう」
それはとても唐突過ぎる別れの言葉だった。それを受け入れてからもう、一か月近く経っている。

「はぁ～彼氏欲しぃ～」
私は誰もいない教室で、机に突っ伏して呟いた。最近は朝一番に来て、愚痴やら何やらを誰かが来るまで独りで呟くのを日課をしている。何もこの時間が憂鬱な訳ではない。この時間が憂鬱で在るならば、こんな朝早く来なければいい話なのだから…
「まだ7時か、一人来るまであと30分くらいあるな」
そう言いつつも、愚痴を漏らしていれば、時間なんかはあっという間に過ぎていき、7時30分。一人目の登校者が来た。
「……」
「…」
敢えてこっちが挨拶も何もしなければ、向こうからは話し掛けてこない。間をおいてから挨拶をするのも何か癪だと思い、無言のまま窓の外でも見ることにした。
「来たのを知っているくせに、挨拶もなしか」
いきなり話し掛けられてびくり、とし、声の聞こえた方――――――後ろをゆっくりと見る。
「な、何？」
「何、じゃなくて、来たのを知っているのに挨拶もなしか、って言っているんだ」
「お、おはよう…？」
「何で疑問形？」
自分でもよく分からなかった。
いつも初めに来るのは巧真（たくま）だってことを知っていたから最近は早

く登校するようになったけど、よく考えるとどうして拓真が早く来ているからって、私も早く来て、しかも先回りみたく早く来ているんだろう？　それに前まではごく普通に話していたのに、最近は上手く話せなくなっている気すらする。
「何か、あった？　最近何か変わったよな」
「何か、って？」
「何か。雰囲気とか、暗い感じがあったりとか、何か悩んでいるんなら誰かに相談してみれば？　俺も話くらい聞けるしさ」
「何でもないよ。でも、ありがと心配してくれて」

元彼と別れてからまだ一か月くらいしか経っていないのに、最近拓真のことを気にかかり始めているのかな、と思ったり思わなかったり、自分のことがよく分からなくなる。でももしかしたら、自分は拓真のこと…それでもいつも、ないない、と深く考えないようにする。別れてすぐに新しく好きな人を作ったら、何か軽い女みたいで嫌だし。
それに…それに拓真は、異性になんて興味がないから、好きになってもこっちが辛くなる。それが噂だけならまだしも、本人の口から聞いてしまっては、凄く辛いと思う。
だから私は深く考えない。それが幸せに続く道だと思うから。

「拓真、私ね。彼氏に振られちゃったんだ」
「悩んでいた原因？」
「どうだろ、ね？」
私は自分で話を持ち掛けておいて、その話を曖昧に終わらせたんだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7400i/

私が朝早くに登校する理由

2010年10月10日16時49分発行